

編輯後記

自己の研究成果を世に公表することは、
学に志す者の責務であることは言ふまでも
あるまい。本誌は、今春四月、福岡女子大
学が創設されたのを機として、既に三号ま
で発行した福岡縣女子専門学校の機関誌
「紀要」を發展的に解消して創刊したもの
である。即ち理科関係教官の研究発表機関
としては「生活科学」、文科関係では本誌を
出すことになつたのであるが、本年度に限
り、女大及び女專教官の共同の研究発表機
関であることを断つて置く。

所載の諸論考については、識者の嚴正な
批判を期待するのであるが、今後われ／＼
は一層研究に専念して、いさゝかなりとも
学問の進展に貢献したいものと念願してゐ
る。幸ひに、われ／＼の意見の誤つてゐる
点、教養未熟な点等に対する示教を仰ぐこ
とが出来たならば望外の喜びである。

われ／＼は本誌をわれ／＼だけのものに

しようとは考へてゐない。学問の公器とし
て出来るだけこれを解放する用意を持つて
ゐる。その手始めとして、福岡縣下の各高
等学校の教職員各位に呼び掛けて研究論文
を募集したのであるが、結果は意外に振は
ず、僅かに数名の応募者があつたに過ぎな
い。勿論これには種々の原因があるであら
うが、ともかく遺憾千万の事であつた。応
募教篇のうち山田氏のを入選として規定の
賞金を贈ることにしたが、これは地道な研
究論文といふよりは、むしろ才によつてま
とめた評論ともいふべきものである。とも
あれ、今後山田氏が自己の専攻される学問
に向つても、いよく努力精進されること
を切望してやまない。

本誌は当分の間、年二回発行の予定であ
るが、眞摯にして価値ある研究に対しては
誌面の一部を解放するに吝かではないか
ら、大方の寄稿を期待する次第である。

(次号締切は來年一月末日)

最後に本誌の執筆者を紹介して置く。

讚井鉄男 男女大教授
中島源治 女大助教授
石本キミ 女專教授
目加田さくを 同 右
井手恒雄 同 右
倉野憲司 女大教授
前田淑 女大國文学科助手
安部弘 女專教授・女大講師
山田輝彦 若松高校教諭
(倉野記)

昭和二十五年十月二十五日 印刷
昭和二十五年十一月一日 発行

第一号

福岡市須崎裏町 福岡女子大学
「文藝と思想」編輯委員

編輯者 倉野憲司

發行者 中島源治

印刷者 間藤次郎

福岡市渡辺通四丁目

印刷所 秀巧社印刷株式会社